



つばさだより No.225

2013年8月



つばさ薬局 多賀城店	☎022(366)8001	吉川店	☎0229(22)7010
長町店	☎022(308)5711	泉店	☎022(772)1571
船岡店	☎0224(58)1065	若林店	☎022(289)8777
中新田店	☎0229(64)1888	松陽台店	☎022(361)9444
松島店	☎022(353)2990	こごた店	☎0229(31)2550
玉川店	☎022(365)2838		

厳しい暑さが続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。

今月は子宮筋腫についてのお話しです。子宮筋腫は30代以上の女性の3~4人に1人がもっており、ライフスタイルの変化などにより近年増加しているといわれています。

## 子宮筋腫とは

子宮筋腫は子宮にできる良性の腫瘍です。腫瘍といっても良性であるため、基本的には命に関わることはありません。しかし、筋腫のできる部位、大きさ、数などによっては辛い症状が現れ、日常生活に支障が出る場合があります。妊娠や出産に関連するトラブルのリスクになることもあります。

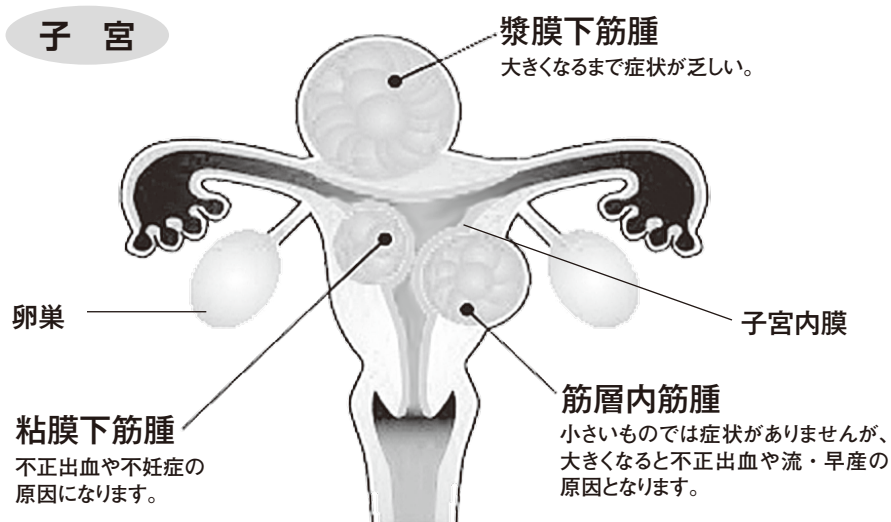
筋腫の大きさは米粒大のものから小玉のスイカほどの大きさのものまでさまざまです。放置しておくとも10kgを超えるような大きさまでになることもあります。女性ホルモンによって筋腫が大きくなりますが、逆に閉経後には小さくなっていくといわれています。

子宮筋腫は原因が不明のため、予防ができません。子宮筋腫と診断されたら、放っておかず経過を観察し、適切な治療を受けましょう。



## 子宮筋腫の主な種類

子宮筋腫は、筋腫のできる部位によって大きく3つに分けられます。ほとんどの場合、筋腫は複数できます。筋腫は子宮の筋層（筋肉の層）にできます。全体の約70%は筋腫が筋層の中で大きくなる「筋層内筋腫」です。他に、子宮内膜のすぐ下にでき、子宮の内側に向かって大きくなる「粘膜下筋腫」、子宮の外側に突き出るように大きくなる「漿膜(しょうまく)下筋腫」などがあります。



## 子宮筋腫の症状

症状はできた場所によってまちまちですが、子宮の内側にできた筋腫は小さくても症状が強く、月経量が多くなります。逆に子宮の外側にできた筋腫は相当大きくなっても症状がでません。

### ● 筋層内筋腫の場合

筋腫が小さいうちは症状はあまりありませんが、大きくなると子宮全体も大きくなり、筋腫に流れる血液が増えるので、月経の量が多くなる「過多月経」が起こることがあります。過多月経に伴い、下腹部が痛む月経痛が起こることもあります。

## ● 粘膜下筋腫の場合

子宮内膜の直下の筋腫なので、血液が子宮内膜に集まりやすく、小さな筋腫でも過多月経が起こります。過多月経から貧血になり、だるさや疲れなどの症状が出たり、貧血が続くと心臓の筋肉への酸素の供給が不足し、動悸や息切れなどが起きることもあります。また、月経時以外に出血する不正出血が起こることもあります。

## ● 漿膜下筋腫の場合

子宮の外側に向かって大きくなるため、子宮以外の部位で症状が出てくることがあります。下腹部が出てきたり、膀胱を圧迫して頻尿になったりします。腰痛が起こることもあります。

## 子宮筋腫の治療

治療法には薬と手術があります。症状がある場合には、まずは薬による治療が検討されます。



## ● 薬物療法

貧血がある場合には鉄剤、月経痛には鎮痛薬や骨盤の血流を改善する漢方薬を使います。月経の量を少なくして月経痛を軽減させる目的で低用量ピルを使う治療が行われることもあります。

また、卵巣機能を低下させ、人工的に閉経の状態にする「偽閉経療法」という治療もあります。治療薬には毎日使う点鼻薬と、4週間に1回の注射薬の2種類があります。偽閉経療法は40代後半～50代の閉経が近いと思われる方に、治療をやめた後、そのまま閉経に至ることを期待して行う治療法です。治療開始後、筋腫は縮小していきます。筋腫を小さくし、貧血を改善させる目的で手術前に一時的に使用する場合には20代や30代の方にも用いられます。

偽閉経療法は、急激に女性ホルモンが減少するので、ほてり、動悸、手足の冷え、不眠などの更年期症状が出ることがあります。また、この治療法を続けると、骨量の低下が起こることもあるため、半年を目安に短期間で行われます。

偽閉経療法は、費用が高いという問題もあります。この治療で一般的に

使われる薬剤を例にとると、点鼻薬だと医療保険3割負担で1カ月約6～7千円（ジェネリック医薬品を使えば4～5千円）、注射薬では1カ月1万円程かかります。

## ● 手術療法

手術は筋腫だけを摘出する方法と子宮全体を摘出する方法に大きく分けられます。

筋腫だけを摘出した場合は、子宮を残せるので妊娠や出産は可能ですが、再発する場合があります。この手術は主に、開腹して行う開腹手術と腹腔鏡手術があります。腹腔鏡手術は、おなかに3～4か所小さな穴を開け、先端にカメラのついた内視鏡を入れて行います。腹腔鏡手術は傷痕が小さく、入院期間も短くて済みますが、筋腫が大きい時や数が多い時は対象にならないことがあります。

子宮全体を摘出する手術の場合、再発はしません。子宮がなくなるので月経がなくなります。卵巣は残るので、女性ホルモンは分泌されます。そのため、更年期障害のような症状が起こることはありません。子宮全摘手術は開腹手術と、膣から手術器具を入れて取り出す膣式という方法があります。膣式の方が術後の痛みも少なく、おなかに傷痕もできませんが、筋腫の大きさなどによっては、安全のために開腹手術が勧められます。

子宮筋腫は、症状や体質、年齢や出産を希望するかどうかで治療法が大きく異なります。子宮筋腫と診断されたら、医師とよく相談し、納得のいく治療を受けましょう。



参考文献・資料：日本産婦人科学会ホームページ  
きょうの健康2012.5月号  
武田薬品工業ホームページ

### 9月の栄養相談予定（各店10:00～12:00開催です）

- 2日(月) 松島店
- 4日(水) 多賀城店
- 6日(金) 松陽台店
- 10日(火) 長町店
- 12日(木) 古川店
- 18日(水) こごた店
- 20日(金) 船岡店
- 24日(火) 玉川店
- 26日(木) 中新田店
- 30日(月) 若林店